

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100632		
法人名	有限会社ミテラ		
事業所名	洛和グループホーム大津 2階		
所在地	大津市大門通り11-11		
自己評価作成日	令和元年11月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2570100632-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お互いに思いによりそいつながるグループホーム」を事業者独自の理念に掲げ日々のケアに取り組んでいます。職員と利用者はだけでなく、職員と職員、利用者と利用者、グループホームと家族、グループホームと地域など、認知症をお持ちの利用者がこれからも色々な方々とつながっていけるようにという意味も含んでいます。
 重度化が進んでいるユニットではあるが、その方の出来ることや感じることは何かを職員で共有して、日々生活していただく中でやりがいや楽しみを感じて頂けるようケアを実践しています。
 三井寺の前にあるグループホームで立地もよく、桜や紅葉などに散歩にでかけ季節を感じていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新管理者の着任に合わせて利用者や家族、地域の方、職員等全ての方が繋がりがながら暮らせるように等の思いを込めホーム理念を見直しています。些細な事でも家族へ連絡を心がけ本人の様子や思いを伝え信頼関係に繋がるよう努め、料理や掃除等の家事に利用者が積極的に携わり活動的に過ごしたり、重度の方が多いフロアでも利用者の思いを汲み取り、関わられる事や楽しめる事を見出し、フロア毎の状況に合わせて穏やかに暮らせるよう支援すると共に併設している往診医や訪問看護との医療連携の下看取り支援にも取り組んでいます。また、経年の中で培った地域との良好な関係を継続し、近隣の寺や商店街の催し等に参加したり、ホームの夏祭りは多くの学童の子ども達の参加を得てダンスの披露やクイズ等を楽しんでおり、更に新たな繋がりに向けた取り組みも始めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度から管理者も交代し事業所独自の理念を作成。大津に掛けて「お互いに思いに寄り添いつながるグループホーム」とし、利用者間、職員間、家族、地域ともつながるグループホームを目指し実践している。	管理者の着任に合わせて利用者や家族、地域、職員などみんなが助け合えるグループホーム作りなどの目指す方向性を職員に伝えて話し合い、新たに独自の理念を作成しリビングに掲示しています。経年の中で培った地域との繋がりや家族との関係を大切に継承しながら理念を意識した実践に努めており、年度末の会議で実践状況を振り返る予定としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童クラブの子どもを招いて夏まつりを開催。交流の機会を設けた。また、地域の防災活動や清掃活動に参加し繋がりをもち続けられるよう取り組んでいる。	自治会に加入し年に数回ある近隣の寺の祭りや商店街の催し、認知症カフェ等に出かけています。マジックショーや楽器演奏等のボランティアの来訪の他、ホームの夏祭りは多くの学童の子ども達の参加を得てダンスの披露やクイズ等を楽しみ交流しています。また児童に向けた認知症サポーター講座等の啓発活動や地域の清掃や防災活動には職員が参加をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、実際に起こったヒヤリハットの傾向や介護事故等を報告。認知症のために起こりうる危険を説明したり、外出行事での課題点などを報告して理解を深めている。児童クラブで認知症サポーター講座を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告した事故や行事について客観的な意見を頂き、対策の参考にしている。	会議は2か月に1回家族や自治会長、民生委員、シニアクラブ会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て地域の方が参加しやすい日時に開催しています。ホームの状況や行事、身体拘束の取り組み、事故や満足度調結果などを報告し意見交換しています。地域情報をもらい祭り等の行事に参加したり、ホームの訓練への協力を依頼する等運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新書類の受け取りに直接伺っている。地域包括支援センターを通じて事業所での取り組みについては伝えていますが直接のつながりについては課題と感じている。	介護保険に関する手続き等は法人担当者が行い、定例化した認知症サポーター講座は複数の市長寿課職員の協力を得て開催し良好な関係を築いています。運営推進会議録は市の委託先を通して提出し、感染症の注意喚起を受けたり研修案内には内容により職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の研修に参加し知識を深め、毎月のミーティングの機会に伝達を行って、個人の気付きで終わることがないようにしている。その人らしさと尊厳を守る意識を日頃から話し合うことで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回身体拘束に関する法人研修を受講したり、毎月の会議の中でも言葉による行動の制止などについて声の掛け方や対応などを具体的に伝え職員は理解しています。臥床時のみセンサーを使用している方がおりカンファレンスで必要性を検討しています。夜間以外は玄関やエレベーターは施錠せず外へ行きたい方は思いに傾聴し理由を探りながら納得が得られるよう付き添っています。	

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催の研修に参加し虐待防止に努めている。入居者の外傷は必ず申し送り、万が一虐待の兆候が見られたときにも見逃す事が無いように事業所として虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の研修に参加。ご家族からの相談があれば制度についての案内もさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時はもちろん、介護保険改正時等に変更があるときは変更点の説明を行い、ご家族の疑問点を解消できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの作成時には必ずご家族様の意見を頂いている。年1回、満足度アンケートを実施し結果を踏まえて職員間で検討しグループホームの運営改善に生かしている。結果等については運営推進会議やホーム便りでお知らせしている。	家族には毎月利用者の思いや状況などを伝える報告書を送付したり、電話で連絡を取り信頼関係を築くようにしており、来訪時や電話、運営推進会議、満足度調査などで意見を収集しています。連絡が多いとの意見を受け、法人としての方針を伝えると共にメールでのやり取りを検討しています。また利用者の希望は時には選択肢を示しながら聴き、食べたい物を食事に取り入れる等反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員ミーティング機会に意見が出せるように配慮している。意見が出しやすいように事前に意見求めたり個々の考えが生かせるように工夫している。職員やりがいアンケートも年に一回行っている。	職員は申し送り時や申し送りノートなどを活用し、日々の中で多くの意見や提案を出しています。業務改善への提案や物品の購入や買い替えの希望など、毎月の会議では職員から出された意見を下に話し合い、内容によっては法人に上げシャワーチェアへの購入などに繋がっています。また年に1度の職員アンケートや年に2回行う個別面談も意見や希望を出せる機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己申告書や力量評価時に個別に面談を行い職員個々の働く環境についての意見ややりがい、課題について確認し向上心を持って働く事が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人のキャリアパスシステムに沿って職員の力量に応じた学ぶ仕組みがある。事業所内では個々の力量に応じて役割や業務分担し力を発揮し向上していけるように取り組んでいる。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の機会での交流や同期入職など個々での繋がりはあるものの事業所として交流等の機会は少ない。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約に至る前の段階に面談等で本人の情報を収集し、可能であれば本人からも不安や困っていることを聞いて、サービス開始時に安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談において、家族の本人に対する思いや入居後の要望等を確認し、グループホームに入居後に可能な支援について共に考えていける関係作りを意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等で得た情報を元に職員でカンファレンスを行い、本人や家族がそのときに必要としている支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあい、思いに寄り添うという考え方を大切にしている。利用者が自発的に行った行動を尊重し、感謝の言葉を伝え信頼関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のケアプラン作成時には必ずご家族に意見を伺い共にご本人のケアを考えていただく機会としている。面会時には本人と過ごしていただけるように職員が間にはいりコミュニケーションがとれるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が来訪されたり、一緒に外出したり、関係が途切れないよう支援している。	友人や孫、親戚等の来訪時は居室に椅子やお茶等を用意しゆっくり過ごせるよう配慮し、時には職員が間に入り会話がスムーズに行くよう支援しています。近隣にある寺は多くの利用者の馴染みの場所でもあり桜や紅葉等を見に行っています。重度の利用者も多く昔の仕事や働いていた場所等の思い出話をしながら懐かしんだり、家族と自宅等に戻る方は出かける準備等を支援しています。	

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時その時の利用者同士の関係を尊重し、対人関係のストレスを減らすよう気を配っている。孤立しがちだった利用者も、工夫して徐々に他利用者との関係が深まっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や連絡があればその都度相談や支援している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時に本人や家族の希望や意向を把握できるように努めている。また利用者との普段の会話の中から好きなことや思いを汲み取るように努めている。	入居に向けた面談では本人や家族から生活歴や好きな事、暮らしへの希望等を聞いたり、関わりのあった事業所等から得られた情報を基に意向の把握に繋がっています。入居後は日々の中で本人のやりたい事を聞き共有したり、把握が困難な場合は表情や様子などを記録に残し、カンファレンスで思いの把握に向け検討しています。また全職員で一人の利用者のアセスメントを作成し思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントシートやセンター方式を活用している。面会時に直接ご家族から以前のご本人の暮らしについて伺うなどして把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護日誌を中心にカンファレンスで利用者の現状把握に努めている。それらの情報を元に本人のリズムを大切に生活できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画立案時だけではなく普段から現状の報告や相談を家族や医療従事者との間で行っており、それを元にチームで話し合いを行ってケアプランを作成している。	介護計画作成時はアセスメントを行い、本人や家族の意向を基にカンファレンスで話し合い作成しています。入居当初は概ね1~3ヶ月と6ヶ月程で見直し、その後変化の無い場合は1年毎に見直し、其々の中間でモニタリングを行っています。計画の見直しに向けては往診医や訪問看護師の意見を事前に確認したり、利用者の状況によっては理学療法士にも意見を聞き見直しに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを実践し介護記録に残し共有している。また毎月行う個々の職員のケアの振り返りを職員間で共有しケアプランの見直しにも生かしている。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の希望に応じて多職種連携しながら出来る限りその時のニーズに添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの活用や、近隣の店で買い物を、地域の祭りへや認知症カフェへの参加などを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要となった場合は家族に説明し了承を得ている。かかりつけ医と家族が必要に応じて面談できるように職員が仲介役となり支援している。	契約時にかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが全員が併設している往診医を選択し月2回往診を受け、状況は医師が直接家族へ説明しています。専門医への受診は主に職員が付き添い受診し、急な体調変化時は訪問看護師に連絡を取り、訪問看護や医師の往診を受ける事もあります。また希望や必要に応じて口腔ケアや治療を受け、訪問マッサージを受ける方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際には利用者の状態や気になる事を伝えて共有している。また随時気になる事がある時は相談でき医療的な視点から指導を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し病院の相談員看護師との連携を図っている。退院に関しては早期から情報の共有を図れるようにグループホームからもアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を事前に把握し、必要時は主治医や関係者を交え話し合いや説明の機会を設けチームで支援している。	契約時に看取りに関する指針を基にホームの対応について説明しています。利用者が重度化した際は家族や往診医、訪問看護師、職員で緊急時の対応等を含めて話し合い方針を決めています。看取りを支援する際はケース毎に医師が作成した手順や心構え等の資料を職員間で共有し、医師や看護師と連携を図り、家族には付き添い等の協力を得ながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習を受講出来るように調整している。また研修で医療について学ぶ機会があり現場での伝達研修を行うことで全職員が知識を習得できるようにしている。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との合同の避難訓練を年2回実施している。また不定期ではあるが法人の防災担当者より災害についての注意喚起がありその都度周知している。	年に2回消防署の立ち合いの下、其々昼夜を想定し、通報や初期消火、避難誘導、機器の使い方等の訓練を行い、運営推進会議で訓練への参加を依頼しています。また報道等の事例があった際は法人から注意喚起のメールが届き職員に回覧しています。地域の訓練には職員が参加し、缶詰や日々の食材を3~4日分ストックしており、停電に備えカセットコンロの購入等を検討しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した声かけや対応について、カンファレンスの場で日頃のケアを振り返り、話し合う機会を設けている。また職員同士で日常的に意見交換している。	職員は年に1度接遇等に関する研修の受講や2ヶ月に1度行っている認知症の勉強会でも関わり等について学んでいます。利用者に安心してもらえるよう一人ひとりに合った言葉掛けや対応を心がけ、不適切な対応が見られた場合はその都度注意し、カンファレンスでも注意をしています。またセルフチェックシートを用い職員が個々に気付く事を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化が進み自分の思いを伝えられない利用者も多いが小さなことでも日常的にたずねる事で希望を表現できる環境をすることに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を聞き希望に沿ったケアを実践できるように心掛けている。起床、就寝、入浴、散歩など、なるべく本人のタイミングを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には整容、その日着る洋服を一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備を一緒に行ったり、味見や盛り付けなどで食事づくりに雰囲気だけでも参加できるようにケアの工夫をしている。	その日の担当者が旬の野菜を多く取り入れながら献立を決め、利用者は野菜の下処理などに携わったり、台所に入り調理できる方もおり一緒に食事を作り、職員も共に食卓に着き談笑したり食事介助をしながら同じ食事を摂っています。またホットプレートでお好み焼きを作ったり、ホテルでの外食や回転寿司、時には出前を取る事もあり食事を楽しめるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて食事量と必要に応じて水分量を把握している。摂取量が確保できていない時は、好みの飲み物を提供したり、介助にて摂取できるように工夫している。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携を行い、口腔ケアの方法など教育を受け口腔ケアを行っている。利用者自身の歯磨きのあと、職員が仕上げを行って清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し可能な限りトイレで排泄ができる様に誘導など必要な支援をしている。	記録から把握した個々の排泄の間隔や生活リズムに合わせてトイレへの声掛けを行い、立位の取れる方は日中はトイレで排泄できるよう支援をしています。個々に合った排泄用品の選択や支援の方法を随時話し合い、申し送り時などに情報交換し共有しています。紙パンツを使用し入居した方は支援をする中で布の下着に改善したり、おむつ使用で退院となった場合も日中は紙パンツに変え早期にトイレで排泄できるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護との連携を測り服薬調整や運動、または食材や水分摂取でスムーズな排泄に繋がるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に入浴の意思があるかを確認してから支援するようにしている。それぞれの好む湯温にも配慮している	入浴は主に午後から個々の体調にも配慮しながら週に2回を目安に間隔の空いている方から声をかけ入ってもらっています。一人ずつ湯を入れ替え、希望により回数を多く入る方もおり、季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤なども用いながら職員とコミュニケーションを図り、個々のペースで入浴できるよう支援をしています。入浴を断る方には職員の交代や声掛けを工夫しながら入浴できるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況や前日の睡眠状態からも休息の促しを行う場面もある。基本的には自由に休息ができる環境を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効き方や必要性などを日々よく話し合っている。内服に変更が生じた場合は回覧し周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の望みややりたいこと、得意な事を踏まえて日々の中で力を発揮できるようなケアプランを作成し、具体的な支援ができるように取り組んでいる。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外食など支援をしている。日常的な散歩に、個別の外出なども行っている。	気候の良い時期は利用者の状況に合わせて近隣にある三井寺への散歩や個別の希望を聞きながら買い物や喫茶に行ったり、駐車場での外気浴や日々ごみ出しや新聞取りなども利用者と一緒に、工夫しながら外気に触れる機会を作っています。また初詣に始まり桜の花見や紅葉狩り、敬老会はホテルで会食したり、地域の祭りや認知症カフェ等にも出かける機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はおられないが、現金の所持を希望されている方にはご家族に了解を得てご本人の財布を持ってもらう。また預かっているお金は必要な時にいつでも使えることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族への電話の支援をしている。現在手紙を書くことを支援する事は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度は利用者にも確認し快適な状態となるように調整している。利用者と共に季節に応じた作品作りをして掲示したり、毎月生け花や鉢植えをしてもらう事で季節を感じることが出来るよう工夫している。	玄関やフロアには正月飾り等と共に利用者と一緒に活けた花を絶やさぬよう飾り、落ち着いた雰囲気の中で利用者がゆっくり寛げる空間作りを心がけています。またフロア毎の利用者に合わせてテーブルやソファを配置したり、温湿度の管理や利用者に直接風が当たらないようエアコンに風よけを付ける等過ごしやすいよう工夫をしています。日々の換気と共にできる方と一緒に掃除を行い清潔な空間を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたところにソファを設置し、一人になりたい利用者がいるときは使用できるような環境を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れたものや家具を持参していただき本人にとって居室が居心地良く過ごせる場所となるようにしている。	入居時に使い慣れた物が身近にある事で利用者が安心して過ごせることを家族に伝えています。使用している寝具類やテレビ、筆筒やソファなどを持参し家族が過ごしやすいよう配置し、その後安全な動線等を考えて家族に提案し変更することもあります。また大切な遺影を飾ったり、趣味の俳句の本や好きな歌手のCDを聞いて過ごす方もおり、その人らしく安心して過ごせるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の表札を出したりお手洗いを明記する事で利用者が自立した生活を送れるように配慮している。		